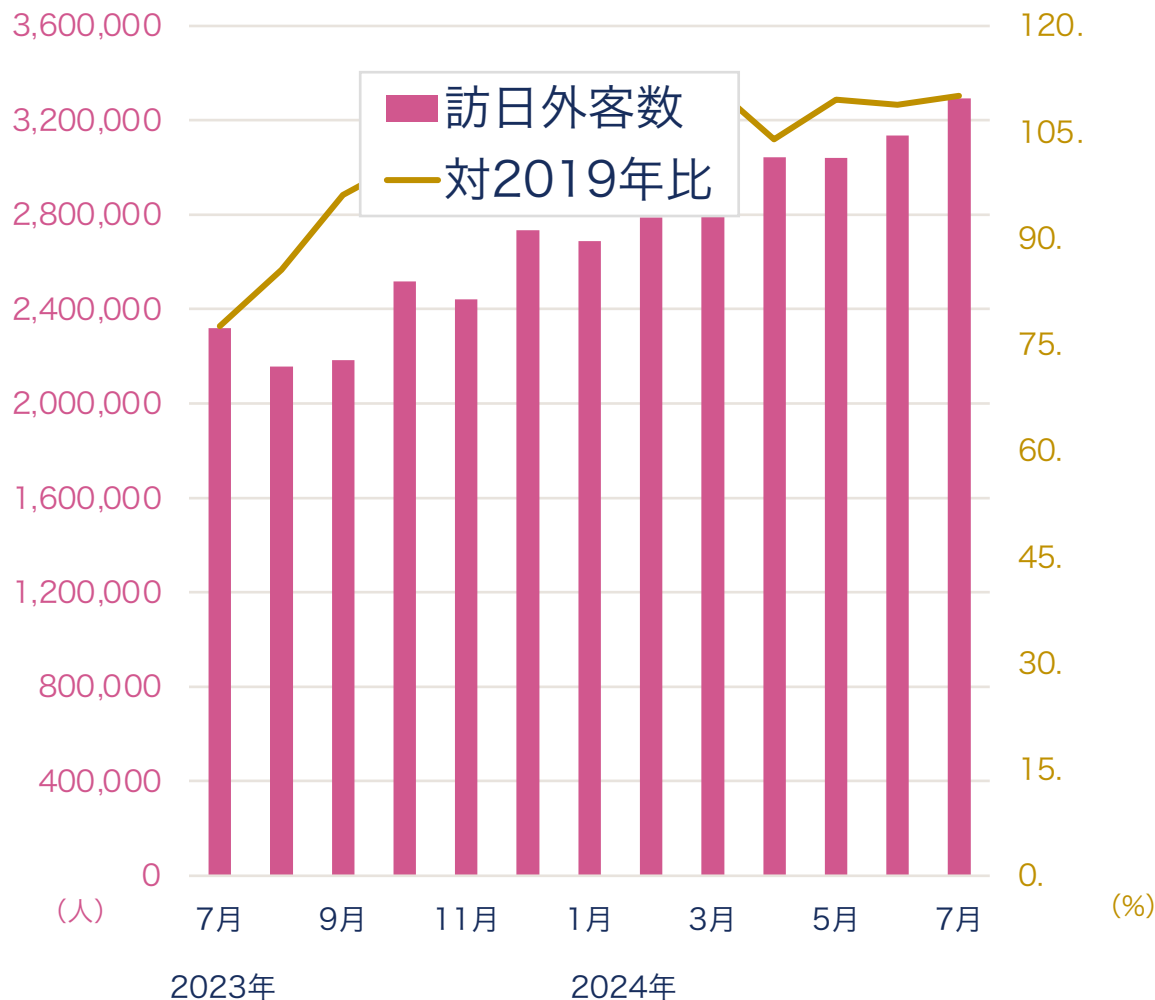


2024年9月 インバウンドマーケット資料



Japan ticket



7月の訪日外客数 329万人 過去最速で2,000万人を突破

2024年7月の訪日外客数は、前年同月比141.9%、2019年比110.1%の329万2,500人で、2か月連続で単月として過去最高を記録しました。

また7月までの累計では2,106万人となり、過去最速で2,000万人を突破しました。

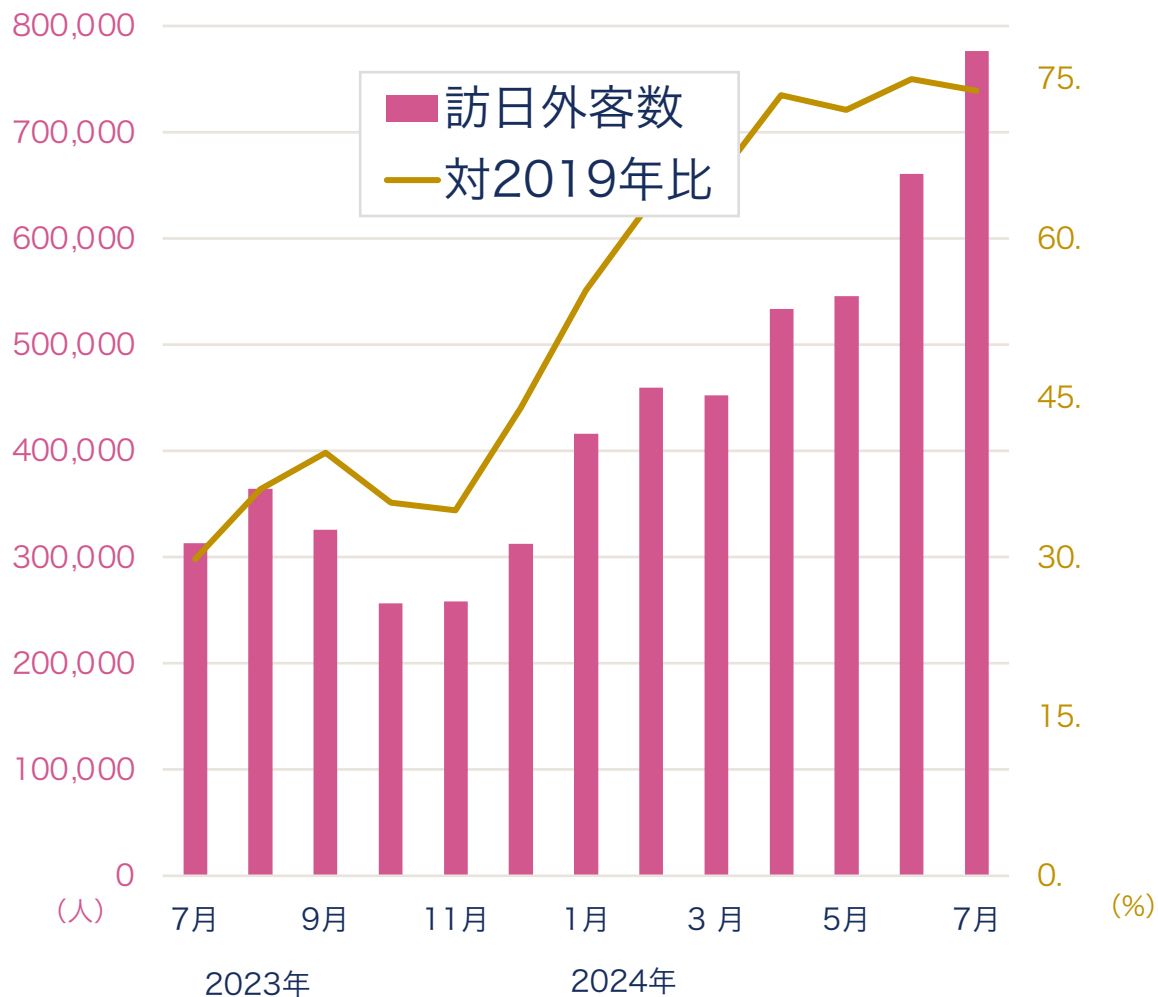
	2024年7月 主要国 訪日数 (人)	7月 対2019年比 (%)	7月 対2023年比 (%)
総数	3,292,500	110.1	141.9
韓国	757,700	134.9	120.9
中国	776,500	73.9	247.8
台湾	571,700	124.5	135.4
香港	279,100	128.7	129.0
シンガポール	28,100	129.4	111.0
インド	14,900	112.7	113.3
米国	251,200	160.1	126.3
英国	32,900	113.7	122.0
豪州	48,600	139.4	136.3
メキシコ	16,000	184.7	160.2
中東地域	12,800	187.9	128.8

主要な市場のうち8割で 過去最高の訪日人数を記録

23市場のうち19もの市場において、7月として計測以来過去最高を記録し、香港・メキシコでは単月での過去最高も更新。

東アジアや欧州などで学校休暇により訪日需要の高まりがみられたほか、6月に引き続き、台湾、フィリピン、米国などで訪日外客数が増加したことが、今月の押し上げ要因となりました。

また、コロナ禍以降トップを独走していた韓国を中国が抜き、国別1位になっています。



訪日中国人数は77万人 2019年比73.9%

2024年4月の訪日中国人数は、2019年比73.9%の77万6,500人でした。

2019年比の回復率としては堅調な推移となっているものの、人数としては前月6月の66万人から11万人の増加となっています。

5月から6月にかけても12万人増加しており、2ヶ月連続で10万人以上の増加を記録しました。

7月全国百貨店売上高は前年比5.5%増、29カ月連続プラス

日本百貨店協会が8月23日に発表した7月の全国百貨店売上高は、店舗数調整後で前年比105.5%の5,011億円と、29か月連続のプラスを記録しました。

円安を背景にインバウンドが引き続き好調で、売上高は前年比202.3%の633億円と、2008年の調査開始以来3番目に高い水準に。1月から7月までの累計では3,978億円と、過去最高だった2023年の年間売上（3,484億円）をすでに上回っています。

商品別にみると、ラグジュアリーブランドを中心としたバッグや財布などの革小物、時計、美術・宝飾、化粧品などが牽引しました。

さらに調査対象の百貨店71社・177店舗のなかでも、東京地区は前年比8.3%増と、35か月連続プラスとなっています。



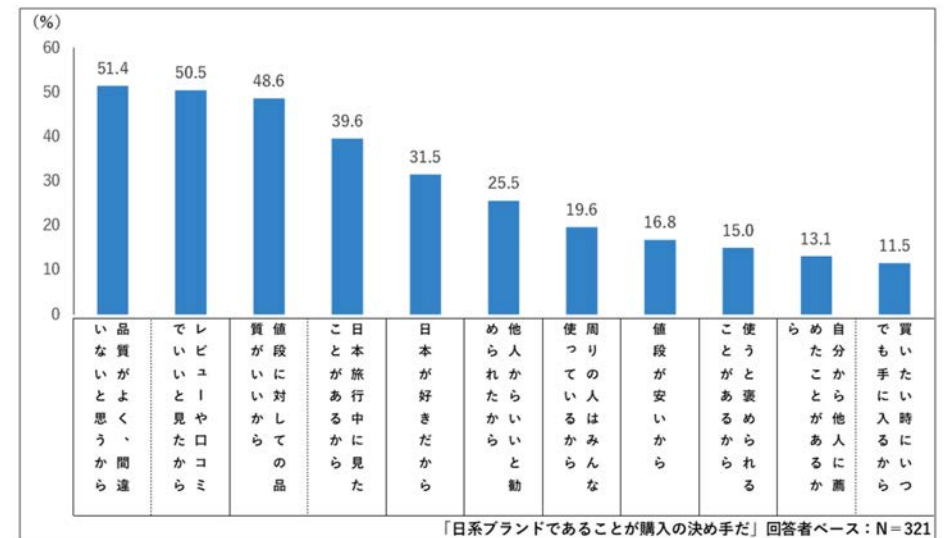
中国人生活者の3か月後の訪日意欲 購買意欲は持ち直しの兆し

株式会社博報堂DYホールディングスの研究開発部門であるMTCと、中国のライフサービスオンライン検索プラットフォーム「美团」の広告部門は、中国人生活者を対象とした「インバウンド予報調査（第3回）」を共同で実施。

8月のインバウンド予報指数は83.2点で、前回2023年6月から微増ですが、特に訪日経験1回の層では前回+9.4ポイント上昇しており、再訪意欲の高まりがうかがえます。

訪日経験のある層に限ると、今後の訪日目的は「高級レストランを体験する」（73.0%）「大衆料理を楽しむ」（73.0%）「温泉入浴」（68.5%）などが上位に入り、依然として“体験重視”の結果となりました。

また、日常消費財を中心とした買い物に際して、日系ブランドであることが購入の決め手だと考える中国人生活者は全体の6割超を占めており、品質の高さなどが主な理由でした。



お盆期間の国際線、東アジア中心に好調

全日本空輸（ANA）や日本航空（JAL）、スカイマークなど航空12社は8月19日、お盆期間の利用実績を発表しました。対象期間は8月9日から18日までの10日間。国際線の旅客数・提供座席数はFSC（フルサービス航空会社）とLCC（低コスト航空会社）でいずれも増加し、東アジア方面を中心に堅調に推移しました。

12社の発表値を合計すると、国際線旅客数は前年同期比17.3%増の60万6,296人、提供座席数は13.0%増の68万6321席。12社平均の国際線座席利用率は、3.2ポイント上昇の88.3%でした。

韓国 地震の懸念にも日本行き飛行機の利用客は増加

8月初めに日本で発生したマグニチュード7.1の地震を契機に提起された大震災への懸念にもかかわらず韓国で日本路線航空便を利用した乗客は昨年よりも増えたことが分かりました。

さらに、台風の影響で多数の航空便が欠航していた光復節の連休にも日本路線は混雑。

仁川国際空港公社と韓国空港公社から提出された資料によると、8月1日～20日に韓国国内空港を利用した日本路線利用客は出入国合わせて138万5,000人余りと集計され、昨年同期（114万7,000人）に比べて20.8%、先月の同時期と比較しても6.3%増加しました。



Japan ticket